

議第 1 号

「岐阜県立高等学校の活性化に関する平成 29 年度の検討まとめ」について

「岐阜県立高等学校の活性化に関する平成 29 年度の検討まとめ」を別紙のとおりとする。

平成 30 年 4 月 18 日提出

岐阜県教育委員会

教 育 長      安 福      正 寿

(提案理由)

県立高等学校の活性化に関する昨年度の取組結果と、今年度以降の取組内容及び検討課題を「岐阜県立高等学校の活性化に関する平成 29 年度の検討まとめ」として整理し、今年度以降の検討に資するもの。

---

---

岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ

<平成29年度>

---

---

平成30年4月  
岐阜県教育委員会

# 目 次

1	平成 29 年度の検討まとめについて.....	1
2	平成 29 年度の実組結果.....	1
	(1) 平成 30 年度入学選抜制度の変更及び学科改編等について.....	1
	(2) 地域連携による活力ある高校づくりについて.....	3
	(3) 進学指導の強化について.....	12
	(4) スーパーグローバルハイスクールの拡充について.....	15
	(5) 少人数コミュニケーション講座の開発について.....	17
3	平成 30 年度以降の実組内容.....	18
	(1) 地域連携による活力ある高校づくり (拡充) .....	18
	(2) 進学指導の強化 (拡充) .....	18
	(3) 理数教育フラッグシップハイスクール事業 (新規) .....	18
	(4) 専門高校活性化に向けた総合戦略事業 (新規) .....	19
	(5) 演劇等を通じた高校生のコミュニケーション能力の育成 (新規) .....	19
4	検討課題.....	20
	(1) 高校の特性に応じた活性化策について.....	20
	(2) 今後の生徒減少期を見据えた生徒募集について.....	22
	(3) 併設型中高一貫教育校について.....	22
5	平成 31 年度の学科改編等について.....	23
	資料編.....	28

## 1 平成 29 年度の検討まとめについて

- 県教育委員会では、平成28年3月に岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会から提出された「審議まとめ」を受けて、県立高校の活性化の方策について具体的な検討を進め、年度ごとに取組結果等を「検討まとめ」として取りまとめることとしている。今回発表する「平成29年度の検討まとめ」は、平成29年度を取組結果と平成30年度以降の取組内容及び検討課題を取りまとめるとともに、平成31年度（現中学校3年生が入学する年度）に実施する学科改編等について示すものである。

## 2 平成 29 年度を取組結果

### (1) 平成30年度入学者選抜制度の変更及び学科改編等について（平成29年7月発表）

- 県立高校活性化の方策の一つとして、以下のように平成30年度入学者選抜制度の変更及び学科改編等を行った。

#### **通学区域に関する規則の廃止（全県一区）**

岐阜県の県立高校のうち、専門学科、総合学科、単位制普通科は、従前から全県一区となっており、学年制普通科も、既に平成25年度入学者選抜より隣接学区からの受検が可能となっていた。全県の生徒が、県内全ての県立高校の中から、より主体的に高校の選択ができるように「県立高等学校の通学区域に関する規則」を廃止して、平成30年度入学者選抜から全県一区とした。

#### **県外からの募集**

県外からも意欲の高い生徒が入学することで、生徒同士が切磋琢磨できるなど、教育環境が高まることを期待して、特色ある教育内容や部活動を実施している一部の高校について、県外からの募集（以下、県外募集）を実施することとした。この県外募集実施校については、生徒募集に課題のある高校のうち、他県からの入学が期待できるような特色ある学科や部活動のある高校を総合的に選んだ。

< 県外募集実施校（分野） >

加納（音楽）、不破（スポーツチャンバラ）、海津明誠（ヨット）、関有知（ライフル射撃）、八百津（ボート、カヌー）、東濃（ロボコン）、多治見工業（セラミック）、恵那農業（園芸）、坂下（福祉）、高山工業（建築インテリア）、飛騨神岡（ロボット）

## 1 学級40人未満の入学定員の設定

これまでの入学状況や今後の生徒減少期を見据え、平成30年度入学者選抜から一部の高校において、1学級40人未満の定員設定を実施した。

該当校：坂下（普通30人、生活文化30人、福祉30人）、吉城（普通30人×3学級、理数30人）

## 学科改編等

以下の各高校において、平成30年度入学生から学科改編等を行った。

岐阜	<b>単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	（目的）より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能とするため。 （方向性）グローバルリーダーの育成を目指し、より高度な学習ニーズに対応した多様な授業を展開し、大学入学者選抜改革や大学入学後を見据えた探究的な学びを実現。新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学びを推進。
各務原	<b>理数科、英語科の募集停止（学年制による全日制課程普通科）</b>
	（目的）高校入学段階で学習分野を絞り込まず、生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。 （方向性）普通科において理数科や英語科での学びを継承し、課題解決能力や英語コミュニケーション能力を高める学習を推進。これまでの海外姉妹校交流、短期留学制度、各務原市と連携した英語教育活動は継承。
岐阜工業	<b>機械科を、航空機械工学科に再編 8学科を4学科群に再構成して学科群ごとに募集</b>
	（目的）時代と地域産業のニーズに応える人材育成に向けた工業教育環境の充実を図るため。 （方向性）1年生では学科群に関する基礎科目を学びながら、進路目標を見定め、より専門的に学びたい学科を決定し、2年生から小学科に分かれ高度な専門性を身に付けられるような新たな教育課程を編成。

多治見	普通科自然科学コースの募集停止 普通科に単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）
	<p>（目的）高校入学段階で学習分野を絞り込まず、生徒の多様な進路志望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）自然科学コースでこれまで実施してきた出前講座や校外研修等の教育活動を継承し、新しい体験型学習を導入。多様な授業展開により個々の興味・関心や進路志望にきめ細かに対応し、探究的な学びを実現。</p>

## （２）地域連携による活力ある高校づくりについて

- 小規模化の進行が急な10校（グループ1）については平成28年度から、次に小規模化の進行が懸念される6校（グループ2の9校のうち専門高校を除く）は平成29年度から、各高校において学校関係者や市町関係者、地域の産業界代表等により構成される協議会を設置した。この協議会では、地域の特性を高校活性化に生かす様々な提案や議論がなされている。
- 高校を核とした地域人材の育成や地方創生という観点から、「平成28年度の検討まとめ」にも示したように、入学者数等といった一律の評価により再編統合の必要性を検討するのではなく、当面はそれぞれ小規模校として維持し、単独校としての活性化策を地域と一体となって推進する。
- 平成29年度における各高校の活性化に向けた取組の内容や、協議会等での提言・意見及び今後の方向性は、以下のとおりである。

<グループ1>

<b>不破高校</b> (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28: 89/120 → H29: 120/120 → H30: 118/120)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○コミュニケーション能力育成のための演劇表現ワークショップの実施</p> <p>○高等学校少人数コミュニケーション講座モデル事業の取組</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会では、コミュニケーション能力は重要であり、このような取組の成果を大いに期待している。</li> <li>・特別な支援が必要な生徒への対応について、大学などからのアドバイスがもらえるとよい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇1年次生のクラスづくり等のため、演劇表現ワークショップを夏休み前に2回実施することを検討</li> <li>◇平成30年度から学校設定教科「自己探求」を内容改善を図りながら実施</li> </ul>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○地元保育園や老人ホーム等における実習や地域のボランティア活動への参加</p> <p>○小中学校教員参加による学校活性化プログラム研修会(授業改善)の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に不破高校を身近に感じてもらうため、これまで以上に連携を強化してはどうか。</li> <li>・基本的な学習習慣や学び続けられる忍耐力を養うなどの環境づくりをする必要がある。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇今後、更に多くの生徒が進んで参加できるような方法を検討</li> <li>◇授業改善に限らず、生徒の実態を踏まえた課題について再度検討した上で実施</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援: スクールバス「不破高スクール線」の運行補助</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○学校PRチラシの配布や中学校開催の高校説明会への参加等による広報活動</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活躍が目立つ女子生徒が多く進路実現していることも外部に積極的にアピールしてはどうか。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地元の中学校と連携を図りながら、更なるPR方法について検討</li> </ul>	
<b>郡上北高校</b> (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28: 90/120 → H29: 96/120 → H30: 104/120)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○地域人材育成に特化した単位制普通科に向けての検討</p> <p>○中高一貫教育校の強みを生かした小・中・高校における連携の強化</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足が懸念される介護、地域産業等の人材育成ができるコース等が設置できるとよい。</li> <li>・中高の連携、小中の連携はできているので、小学校から高校まで含めた連携も進めていきたい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇カリキュラムの年間計画の作成に向けた日程や地元機関との調整を図るなど検討を継続</li> <li>◇小学校と高校との連携についても検討</li> </ul>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○「奥美濃カレーで町おこし隊」や長良川あゆパークへ企画提案など地域行事への参画</p> <p>○地元公民館やシニアクラブ連合会、デイサービスセンターとの交流会の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校、地域が一丸となって町おこしに活躍しており、今後も継続してほしい。</li> <li>・シニアクラブなどの方々とは高校生との交流を強く望んでおり、活発に活動してほしい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇蓄積したノウハウを今後どのように生かしていくかを検討し継続</li> <li>◇無理なく地域で活躍する喜びを味わうことができる活動を工夫し継続</li> </ul>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○校報「北高通信」の配布や学校HP「北高NOW」等による地域への情報発信</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が地域で活躍し評価されている様子や生徒の生き生きとした姿が伝わってきた。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇手軽にスマホ等でも閲覧できるようにFacebook化を検討するなど、PR活動を継続・発展</li> </ul>	

<b>八百津高校（第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:109/120 → H29:128/120 → H30:123/120）</b>	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○デュアルシステムによる「企業実習」の充実</p> <p>○1年生を対象にした上級学校見学会の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デュアルシステムは素晴らしい取組であり、その成果を中学生や地域等にも広げるとよい。</li> <li>・大学等の見学会は手厚い指導と合わせることで、幅広い進路選択を考える機会となっている。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇連携中学校の3年生へのデュアルシステムの説明会や成果発表会を継続して実施</li> <li>◇生徒の進路志望先や現状を把握した上で見学先を検討</li> </ul>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○インターンシップ「1年生チャレンジ講座」の実施</p> <p>○地域高齢者との交流会や新丸山ダム建設現場の見学</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップをデュアルシステムにうまく繋げてほしい。</li> <li>・高齢者との交流や新丸山ダム建設現場の見学は、地元に着した事業として今後も続けてほしい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇デュアルシステムに向けての生徒の意識付けを実施</li> <li>◇本校の生徒にとって意義深いものであり、今後も改良しながら継続</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：部活動援助、地域交流活動補助等</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○校報「いま八百津高校では」の配布やデュアルシステム成果発表会等による情報発信</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果発表会に参加して、デュアルシステムの取組のよさがよく理解できた。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域を含めて八百津高校の取組を理解してもらうための情報発信を継続</li> </ul>	
<b>東濃高校（第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:121/120 → H29:123/120 → H30:122/120）</b>	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○コミュニケーション能力育成のための演劇表現ワークショップの実施</p> <p>○地元企業の協力によるキャリア教育プログラムの実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇表現ワークショップは文部科学省内でも高く評価されており、今後も継続して実施してほしい。</li> <li>・このプログラムにより、生徒は情報収集・分析・提案・発表の手法等を学ぶことができている。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇3年次生対象に実施したワークショップも有意義であったため、対象学年を再検討し継続実施</li> <li>◇協力企業を開拓するとともに連携方法を改善した上で事業を継続</li> </ul>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○御嵩町の未来について提案を行う「地域づくり類型」授業による学び</p> <p>○保育園や小学校での英語教育の協力や御嵩町の行事への参加</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり類型の発表において、提案の根拠がしっかりしていることなど大変感心した。</li> <li>・ネイティブの発音を聞く機会となり、園児や児童にとってとても有意義であった。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地元からの講師派遣を含め継続して実施するとともに、生徒の発表の場の拡大を検討</li> <li>◇派遣できる人数の拡大を検討した上で継続実施</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：演劇表現ワークショップ補助</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○校報「東濃高」の配布とオープンキャンパスや一日入学等によるPR</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月刊「東濃高」は、学校の状況がよくわかるのでこれからも続けてほしい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇御嵩町内で回覧するとともに可茂地区の中学校にも配布を拡大</li> </ul>	



<b>瑞浪高校</b> (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:125/160 → H29:166/160 → H30:154/160)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○多様な学習ニーズに対応するための新しいカリキュラムの検討</p> <p>○地元の組織と連携を密にした進路指導とキャリア教育の充実</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路志望に応じた多様な科目を開設するなど、更にきめ細かな教育に期待する。</li> <li>・キャリア教育や就職については商工会としても協力したい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇単位制への移行の検討やコミュニティ・スクールの導入などによる教育環境の改善</li> <li>◇瑞浪市合同企業説明会に就職希望者が全員参加するなど商工会等との連携を強化</li> </ul>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○「みずなみ百縁商店街」や「土岐川清掃」などの地域の行事への積極的な参加</p> <p>○市役所ロビーに広報コーナーを設けるなど地域の協力による広報活動の展開</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加を生徒会や生活福祉科に依存しており、負担の分担等が必要である。</li> <li>・瑞浪市、市商工会ともに、今後も協力を惜しまず広報活動を展開したい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域連携・広報等を総括する分掌を設置し、地域行事への協力体制を充実</li> <li>◇広報コーナーやショーウィンドウの展示内容等の更なる充実・改善</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：広報活動の援助</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○学校HPの刷新や、パンフレット、チラシ、DVD等による広報活動</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番の情報発信源は生徒であり、生徒の様子から学校のよさがよく分かる。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇コンテンツの一層の充実・改善を図り、生徒の活動の様子などを継続的にHP等で情報発信</li> </ul>	
<b>土岐紅陵高校</b> (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:100/120 → H29:133/120 → H30:110/120)	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○まちづくりを目指した商品(味ごはん)開発など高校での学びを生かした地域貢献活動</p> <p>○対話やプレゼンテーションの場面を取り入れるなどの授業改善</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉での地域貢献について、授業における連携も可能なので検討してほしい。</li> <li>・対話の場面を取り入れる授業は、コミュニケーション能力を伸ばす点でも意味がある。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇福祉分野における地域貢献について、授業段階からの連携を含めて検討・実施</li> <li>◇対話等の場面を取り入れた授業、地域の専門家と連携して行う授業を拡大・継続</li> </ul>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○就職希望者への地元商工会議所会員による面接指導</p> <p>○地元商工会議所と連携した職場体験や企業見学会</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって非常によい機会であり、継続して実施するとよい。</li> <li>・こうした機会を通じながら、地元で就職して地域を支えていく人材を育成してほしい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇実施方法については見直しを加え継続</li> <li>◇職場体験企業の増加、企業見学時間を拡大して継続</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：講演会の講師派遣</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○週休日におけるオープンスクールの実施や学校新聞の配布等による情報発信</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月週休日にオープンスクールが開催され、生徒にとっては進路決定のよい機会となった。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇各中学校と調整し、今年度と同時期にオープンスクールを実施</li> </ul>	

<b>恵那南高校</b> (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28: 70/120 → H29: 53/80 → H30: 57/80)	
<b>観点①</b>	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○地元企業、恵那市との三者連携による栗を素材にした「6次産業学習」の推進</p> <p>○浪漫学園による小・中・高・特別支援学校の連携</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業学習の取組が更に発展し、生徒がますます成長していくことを期待する。</li> <li>・浪漫学園による小・中・高・特の連携が、恵那市南部全体を巻き込んだものになるとよい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇6次産業学習プロジェクトの内容を吟味し、今後も継続できる活動内容を精査</li> <li>◇恵那市南部を中心とした各学校等との連携を検討</li> </ul>	
<b>観点②</b>	地域と連携した事業
<p>○岩村地域の歴史・文化の学習会の実施</p> <p>○ALTによる英会話教室の実施など地域と連携した異文化理解の試み</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元との連携を深め、明智町や岩村町の歴史を深く学べるようにするとよい。</li> <li>・生徒の学習内容が、一般外国人の観光を案内するレベルに達することが望ましい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇観光という観点からの地域の取組を交えた学習の推進を検討</li> <li>◇簡単な表現を用いて英語を楽しむ観点を重視し、積極的な異文化理解を推進</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：恵那市高校生通学支援モデル事業、英会話教室への講師派遣、6次産業等</p>	
<b>観点③</b>	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○校報「恵那南だより」や「恵那南高校見学バスツアー」等によるPR</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科の系列を工夫・改善するとともに、PRによって生徒、保護者の意識を変えられるとよい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習内容を進路につなげるとともに系列名変更の広報も含めたPRを検討</li> </ul>	
<b>坂下高校</b> (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28: 94/120 → H29: 54/120 → H30: 47/90)	
<b>観点①</b>	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○地域の異世代間の輪を広げる「咲明日（さかした）ステーション交流会」の展開</p> <p>○坂下高校のよさを引き継ぐ「今まで現在そして咲明日（さかした）へ」の実践</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児親子と高齢者との交流を含め、この活動を積極的に外部に発信するとよい。</li> <li>・卒業生たちの思いを理解し、坂下高生としての誇りを持つことができたと感じた。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒が主体的に乳幼児親子と高齢者との架け橋役を務められるような仕組みを作ることを検討</li> <li>◇2年間にわたる取組を検証し、新たな企画を計画して発展</li> </ul>	
<b>観点②</b>	地域と連携した事業
<p>○「そば粉クッキー」の開発など坂下まちづくり協議会への協力</p> <p>○福祉科による「ふれあいサロン」「ママカフェ、老人デイサービス」と出前講座の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そばの効能を明記して、健康食としてのそばをアピールできれば更によい。</li> <li>・高校生が年配の方ととても上手にコミュニケーションをとっていたことに感心した。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇そば粉クッキーの商品パッケージのデザインの提案など発展・継続</li> <li>◇来年度以降も継続的に実施できるよう下級生への引継ぎの仕組みの構築</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：「そば粉クッキー」開発の補助</p>	
<b>観点③</b>	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○Facebookの開設や校報「坂高だより」の配布等によるPR</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員の写真を一度は掲載すると、生徒の励みになるのではないかと思う。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇Facebookや校報などを工夫するとともに、生徒全員の写真の掲載など効果的なPR方法を検討</li> </ul>	

<b>高山工業高校（第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:164/160 → H29:140/160 → H30:127/160）</b>	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○サテライトキャンパス「飛驒の匠工房」の展開</p> <p>○産業現場実習（デュアルシステム）の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市と連携して、飛驒高山ブランドの開発・販売に取り組むことができるとよい。</li> <li>・地元企業への就職に繋がるなど、大きな実績をあげている。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇新商品の開発・販売など「飛驒の匠工房」を継続・発展</li> <li>◇新規に実施した建築系の実習も含め、産業現場実習（デュアルシステム）を継続・発展</li> </ul>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○産学官連携による「ものラボワークショップ」の実施</p> <p>○ものづくり体験教室等による近隣の小学生との交流事業の推進</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市と市内の企業が、東京大学と行っているワークショップへの協力を感謝している。</li> <li>・小学生が高山工業高校で何を学ぶのか理解でき、他の小学生にも活動を勧められるとよい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇産学官連携による「ものラボワークショップ」に引き続き参加</li> <li>◇小学生とのモノづくり交流の継続と拡大についての課題等を検討</li> </ul>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○学校PR動画（DVD）の配布と地元中学校とのTV会議交流による広報活動</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、このDVDをもっと早くから中学生に配布すると効果的ではないか。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇今年度は10月下旬の配布であったが、来年度は6月下旬の配布を検討</li> </ul>	
<b>飛驒神岡高校（第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:77/80 → H29:82/80 → H30:58/80）</b>	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○学校や学科の特徴や取組を紹介する「OPEN! 飛驒神」の開催</p> <p>○「宇宙線研究所KAGRA」等の見学及び模擬授業の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「OPEN! 飛驒神」は、飛驒神岡高校の特徴や取組が大変よくわかる素晴らしい実践である。</li> <li>・宇宙線研究所に生徒が出向く機会や大学院生などとの交流を増やしてはどうか。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇中学校教員も参加できる方策を計画するとともに内容についても再検討し継続実施</li> <li>◇KAGRAの見学等の継続実施に加え、宇宙線研究所との交流の場を増やすことを検討</li> </ul>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○地元宿泊プランの企画から販売まで行う「楽天IT学校」の実践</p> <p>○中高一貫教育校としての地元中学校との連携に加え体験授業等で小学校とも連携強化</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽天IT学校」は、地域資産の活用を実践的に関わっているところが素晴らしい。</li> <li>・飛驒市内の他の小学校も対象に講座を考えてもらえるとありがたい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「楽天IT学校」に代わりビジネス会計系列及び工業技術系列等で1年間の課題研究として実施</li> <li>◇対象の拡大を検討し、飛驒神岡高校の魅力や総合学科の特徴を知ってもらう取組も企画</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：広報活動の援助、楽天IT学校補助、講師派遣等</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○Facebookの開設や校報「中学生のための高校案内」の配布によるPR</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が飛驒神岡高校を知るよいPRになっており、飛驒市としても積極的に協力していきたい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇継続して実施するとともに効果について検証するために入学生へのアンケート実施等を検討</li> </ul>	

<グループ2>

<b>山県高校</b>		(第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29:101/160 → H30:119/160)
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策	
<p>○多様な進路希望や学習ニーズに対応する単位制普通科へ向けての検討</p> <p>○地元関連の著名人による地域連携講座の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップやデュアルシステムなど地域との連携を通して、色々な経験ができると思う。</li> <li>・学校、行政、企業のそれぞれができることを明確にして、先生方の負担を減らすべき。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ものづくりに関する専門性のある講師等を地元商工会から派遣を受けて多様な授業の開講を検討</li> <li>◇来年度以降も、地元に関連した講師による講演を企画</li> </ul>		
観点②	地域と連携した事業	
<p>○山県市との連携・支援による「山高MIRAI（未来）プロジェクト」</p> <p>○科学研究部員による小学生への夏休み科学講座など山県市主催による各種行事への協力</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助により運賃が安く、また増便されたお陰で通学時にバスを利用する生徒の評判がよい。</li> <li>・デュアルシステムの受け入れや講師の派遣などを通して地元としても連携して協力したい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇支援していただいた教育機器等の活用を拡げて授業や実習をより充実</li> <li>◇補習等の学習支援、各種実習、生徒の活躍の場など市や企業からの提案を実践に向けて検討</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：「山高MIRAI（未来）プロジェクト」による補助</p>		
観点③	中学生や地域への広報、情報発信	
<p>○学校HPのリニューアル（スマホ対応含む）と中学生向けの説明会に在校生の体験報告を導入</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会での高校生からの報告は、教員の話よりも興味をもって聴いていたように思う。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇岐阜地区だけでなく中濃地区の中学校に対しても、高校の説明会を繰り返し行うことを検討</li> </ul>		
<b>揖斐高校</b>		(第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29:136/160 → H30:160/160)
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策	
<p>○地元企業の協力による「デュアルシステム実習」の充実</p> <p>○生活環境科福祉コースにおける「介護職員初任者研修」の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生が地元企業を知ると同時に、企業が揖斐高校を知る場として拡大していけるとよい。</li> <li>・役場や施設の方を講師とした130時間もの講義や実習を全員が修了できたことは素晴らしい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇多様な生徒を受け入れてくれる実習先の拡大を検討</li> <li>◇地域と連携した講座等の在り方について今後も研究を継続</li> </ul>		
観点②	地域と連携した事業	
<p>○生活環境科における地域医療講座などの校外学習</p> <p>○生徒会や家庭クラブを中心とした町民大会等の地域行事におけるボランティア活動</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験を通じた利用者の方々との交流が、その職種に就きたい気持ちを強めていくと期待する。</li> <li>・先生方の負担にならないような配慮が必要であるが、生徒のよさや活躍する姿を紹介したい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇医療・介護の専門分野で学ぶ学生との交流会には他科の希望者も参加できるよう検討</li> <li>◇協議会で要望のあった「さざれ石」をイメージしたお菓子を開発し、試食会を実施</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：学習成果発表会等の会場費補助、菓子開発に関する補助等</p>		
観点③	中学生や地域への広報、情報発信	
<p>○学習成果発表会への中学生の招待と中高一貫教育を生かした一日入学実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖斐川町の施設での開催に感謝と同時に、予想以上にレベルの高い発表であったことに驚いた。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地元中学校で実施した「卒業生と語る会」など成果が感じられる実践は今後も継続</li> </ul>		

<b>池田高校</b>		(第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29: 151/160 → H30: 182/160)
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策	
<p>○岐阜経済大学と大垣女子短期大学との教育連携の協定締結</p> <p>○韓国高校生を招いた国際交流事業などユネスコスクールとしてのE S D (持続可能な開発のための教育)活動</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の大学や専門学校との連携を進めることで池田高校の魅力が鮮明になる。</li> <li>・生徒の交流の様子を見るとユネスコスクールとして認定されたことを誇りに感じる。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域が抱える問題を発見して解決策を考える地域実践型アクティブ・ラーニングの推進</li> <li>◇ユネスコスクールとしての「福祉教育」「環境教育」「国際教育」を継続・発展</li> </ul>		
観点②	地域と連携した事業	
<p>○地域の環境保全についての家庭クラブの研究活動と地域への啓発活動</p> <p>○池田町主催の「キャリア教育推進事業」「海外派遣事業」との連携や参画</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清流の国づくりを推進する県の方向性とも合致するので活動の継続・発展を願う。</li> <li>・池田町の様々な活動にお手伝いいただき、感謝とともに住民の側も元気をもらっている。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇環境教育は家庭クラブにとどまらず、総合的な学習の時間等で全員での取組に拡大</li> <li>◇活動記録を総合的な学習の時間「探究・E S D」で活用してキャリア教育を進展</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：各種検定等の補助</p>		
観点③	中学生や地域への広報、情報発信	
<p>○中学生とその保護者向けの学校PRパンフレットの作成と池田中学校全生徒の一日入学</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会でのPRの重要性の意見が反映され、保護者等への積極的なPRが奏功している。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇本校HPに学校行事の動画をアップするなど、今後も地域へのPR活動を継続</li> </ul>		
<b>海津明誠高校</b>		(第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29: 182/200 → H30: 188/200)
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策	
<p>○地元小中学校の教員との合同による教科会議や研修の実施</p> <p>○大学教員による地域連携活動の在り方に関する職員研修</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の教員が高校を見るのは貴重な機会なので、その他の会議も海津明誠高校で行ってほしい。</li> <li>・学校と地域が対等な関係を築くことが大切との言葉どおり、地域で教育環境を整えてもらっている。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇家庭科だけでなく相互の授業参観も含めて小中高の教員交流を他教科に広げるよう検討</li> <li>◇各教科や分掌で地域活動の在り方をよく見直すとともに事前指導を充実</li> </ul>		
観点②	地域と連携した事業	
<p>○生活福祉科による高齢者への配食（ディナー）のサービス</p> <p>○地域の和菓子店と協働による商品開発・まちゼミ・「かいづっちグッズ」等観光振興活動</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配食サービスは食材づくりからJ Aと連携するなど、タイアップして活動できないか。</li> <li>・「まちゼミ」の講座はすぐに定員に達するなど、人気が高くリピーターが多いと聞いている。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇配食サービスは増加の要望が高いが、授業時間の確保等の観点から今後も同程度で継続</li> <li>◇「感謝のどら焼き」と共に詰め合わせるアイテムを企画・開発し、商品化を検討</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：卒業発表会の会場費補助</p>		
観点③	中学生や地域への広報、情報発信	
<p>○卒業発表会への中学生の招待と学校紹介チラシの作成・配布</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画期的な参加型の発表であったので、参加した中学生は進路の目標づくりのよい機会となった。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇来年度以降も、いかに多くの中学生に参加してもらえるか検討を継続</li> </ul>		

<b>関有知高校</b> (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29: 153/160 → H30: 163/160)	
<b>観点①</b>	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○「わかる・できる・活動する」授業の研究と実践</p> <p>○生活福祉科の特色を生かした地域で活躍するスペシャリストの育成</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び直しや基礎学力の定着を図ってもらっていることは大変有り難い。</li> <li>・美濃地区唯一の家庭科専門学科として、中学校と連携した取組を実施して宣伝してはどうか。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇参加型授業をより推進して、教え合いを通じてお互いに高めあう生徒を育成</li> <li>◇各種コンクールや家庭科技術検定への指導方法改善も含めた指導プロセス全体の見直しを検討</li> </ul>	
<b>観点②</b>	地域と連携した事業
<p>○関市社会福祉協議会の福祉協力校としての連携やボランティア活動</p> <p>○地域で活躍する人材育成に向けた関市主催等による各種行事への参画</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブなどで、本校生徒が子ども目線で接し、子どものよさを引き出す姿に感激した。</li> <li>・学校内とは違った生徒のよさが発揮される地域活動を通して自信を持たせてあげてほしい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇家庭クラブやボランティアなど生徒による自主的な活動を継続・発展</li> <li>◇地域との交流は学校全体で関わる機会を増やすことを検討</li> </ul>	
<b>観点③</b>	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○オリジナルクリアファイルの作成と生活福祉科による講習会など本校の特色ある活動をPR</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージアップを図るため、学校独自のキャラクター等を作成してはどうか。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇本校生徒と中学生が直接交流する機会を増やして、生徒を通して学校のよさをPR</li> </ul>	
<b>吉城高校</b> (第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H29: 110/160 → H30: 110/120)	
<b>観点①</b>	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○学科やコース編成の改編を含む新しいカリキュラムの検討</p> <p>○大学等の研究者や大学院生を講師とした出前講座の実施</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難関大学から就職(民間・公務員)まで幅広い進路志望に対応できるカリキュラムの検討が必要。</li> <li>・東京大学宇宙線研究所をはじめ最先端の研究に触れることは他地区の高校にはない魅力である。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇県から理数教育フラッグシップハイスクールの指定を受け、進学型の単位制導入を検討</li> <li>◇飛騨市との連携を深めながら出前講座の内容を充実</li> </ul>	
<b>観点②</b>	地域と連携した事業
<p>○地域課題解決型キャリア教育=YCK(吉高地域キラメキ)プロジェクト</p> <p>○大正大学地域構想研究所と共同による地元企業リサーチ</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決能力、プレゼン能力の向上は先駆的取組であり、カリキュラムへ組み込んでほしい。</li> <li>・大学へ進学しても帰郷して貢献したくなる気持ちが自然に高まるような実践になるとよい。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇プロジェクトリーダー(生徒)の育成と総合的な学習の時間の有効活用について検討</li> <li>◇採用等に関する調査に応じてくれた地元企業との連携方法の模索</li> </ul> <p>地元自治体等からの支援：広報活動の援助、講師派遣に関する援助等</p>	
<b>観点③</b>	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○飛騨市の支援による広報活動の強化とYCK報告会等への中学生の招待</p> <p>&lt;協議会における提言・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報や新聞折り込みの別刷などを通して、本校の取組が地域に確実に伝わるようになってきた。</li> </ul> <p>&lt;今後の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇SNSも利用した効果的な広報戦略の研究など、今後も地域へのPR活動を継続・発展</li> </ul>	

### (3) 進学指導の強化について

- 県立高校における大学合格実績の向上を図るため、普通科がある高校を中心に、生徒の学力向上や教師の進学指導力向上を推進した。

#### 進学指導重点校事業

大学進学を主目的とした普通科がある高校から、以下の4校を進学指導重点校として指定し、事業化した。各校の取組は以下のとおりである。

※平成29年度進学指導重点校：岐阜北、大垣南、加茂、可児

岐阜北高校
研究主題
高い志を持ち、難関大学を目指す姿勢・学習を継続していくことのできる生徒の育成についての研究
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
<b>○難関大学の見学【2年生希望生徒対象】</b> 東京大学、早稲田大学などの見学と、それらの大学に進学した卒業生や教授から説明を聴講 ⇒実際に大学に出向き経験したことは刺激になるので、次年度も実施を検討
<b>○名古屋大学出前講座【全学年希望生徒対象】</b> 名古屋大学へ向かう姿勢づくりを目的に、年4回名古屋大学各学部の教授を招へいして講演 ⇒次年度も内容を精選して実施
<b>○外部専門業者による学習支援【全学年希望生徒対象】</b> 外部講師を招へいし、年4回現役合格のための学習方法についての講義・演習を実施 ⇒学年によって内容や時期を再検討して実施
今年度のまとめ
◎実施できた事業内容については概ね目標を達成することができたと思われる。 ◎難関大学を意識した内容を中心に生徒側、教員側の双方の意識向上とレベルアップが図れるように推し進めた。 ◎本年度の入試結果を検証し、次年度は内容を精選するなど具体的な取組に生かしたい。



<b>大垣南高校</b>
研究主題
外部講師や予備校を活用して進学指導体制の補強を図るとともに、授業力の向上のための教員研修に取り組み、選抜性の高い大学等への進学志望を実現してほしいという地域の期待に応える進学指導力を有する学校づくりについて研究する。
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
<p>○土曜開放での学生サポーター事業【全学年希望生徒対象】</p> <p>岐阜大学工学部または教育学部の大学院生が自習室で待機し、質問に訪れる生徒に対応 ⇒次年度は外部学生ではなく、卒業生を学生サポーターとして協力依頼</p> <p>○学習環境の整備</p> <p>進路学習室と多目的室に自習用机・机上ライトを設置し、自学自習の環境を整備 ⇒部活動のない曜日に生徒が取り組みやすいよう、次年度も継続して整備</p> <p>○職員研修、先進校視察【教員対象】</p> <p>予備校等が主催するセミナーへ参加、東京都の2校へ先進校視察 ⇒次年度は教科でバランスをとり、多くの職員が参加研修できるよう工夫</p>
今年度のまとめ
<p>◎1, 2年生に対して、早い段階から国公立大学などへの進学を意識させることができた。</p> <p>◎職員研修では、教員セミナーや先進校視察の内容を教科や職員会議で情報共有し、全職員での学びとして捉えることができた。</p> <p>◎次年度は、今年度の反省から継続する事業に加えて、更に直接的な指導に役立てられるよう、外部講師による進学補習授業などを計画、実施していきたい。</p>

<b>加茂高校</b>
研究主題
進学校である本校の役割を十二分に果たし、地域の担い手となる人材を育成するために、生徒のモチベーションを高め、職員の指導力や専門性を高める方策を探るとともに、より生徒の実態に合った教育環境の整備を進め、授業改善につなげるための方策を探る。
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
<p>○生徒の知的好奇心を引き出す講座【3年生希望生徒対象】</p> <p>3年生夏期補習の一部に外部講師を招へいして、4教科5科目（英・数・国・物・化）において、生徒の知的好奇心を引き出し、学習意欲を高める目的で実施 ⇒今年度の反省を元に次年度の内容については再検討して実施</p> <p>○職員の指導力向上を図る研修講座【教員対象】</p> <p>外部講師を招へいして、3教科（英・数・国）で入試への指導法についての研修を実施 ⇒授業改善というゴールから遡った講座の計画と検証の方法について研究</p> <p>○生徒の現状に合った教育環境の整備と教材開発</p> <p>ICT機器を導入して、日頃の授業改善とデジタル教材の開発を推進 ⇒ICT活用について、生徒にとってより深い学びになるように研究</p>
今年度のまとめ
<p>◎学ぶ側と教える側の双方にとって、狙いどおりの成果があった。</p> <p>◎豊富なデータを元に時間をかけて研究をしている予備校等、外部機関の情報は大変有益であった。</p> <p>◎ICT機器の整備と授業改革及び生徒が集中して自主的に学べる自習室の整備は、最重要課題であることから、次年度も取り組みたい。</p>



<b>可児高校</b>
研究主題
希望する進路が達成できる可児高校 ～ 国公立大学現役合格率 50%を目指した取組 ～
特色ある主な取組内容及び今後の方向性
<p>○<b>苦手科目克服講座【3年生希望生徒対象】</b> 3年生夏期補習の一部に、外部講師を招へいして苦手科目克服を目的とした講義・演習を開講 ⇒講座の持ち方を再検討して、次年度は更に充実したものを計画</p> <p>○<b>可児高校独自進路指導教材「縮緬」の作成【全学年生徒配付】</b> 可児高校卒業生が大学生活や高校時代の学習法を紹介し、執筆・編集まで行った進路冊子を作成 ⇒卒業生の声を届ける独自の進路教材の開発、卒業生による講演会などの企画・検討</p> <p>○<b>学習室（自習室）の整備・情報発信機能の充実</b> 講義室に移動可能な自習用個別ブースを設置するとともに、進路情報を発信する棚を設置 ⇒3年生だけではなく1, 2年生も利用できるように整備を計画</p>
今年度のまとめ
<p>◎これまでの生徒の進路実態を踏まえ、進路実現に向けた具体的な取組ができた。</p> <p>◎教員個々の教科指導力、進学指導力を向上させる契機とする取組ができた。</p> <p>◎国公立大学の情報を提示し、進学意識を高め、個々の学力を向上させる取組を今後も展開したい。</p> <p>◎本年度の入試結果を検証し、次年度の具体的な取組に生かしたい。</p>

## 進学指導連携事業

大学進学指導連絡協議会を中心に、高校間で連携を図り、効果的な入試対策とモチベーション向上を目指す事業を推進した。事業内容は以下のとおりである。

※大学進学指導連絡協議会幹事校：岐阜、岐阜北、大垣北、関、可児、多治見北、恵那、斐太

今年度の主な事業内容
<p>○《新規》外部講師による高校生のための東大・京大入試研究会【県内全域希望生徒対象】 東大・京大を目指す3年生を対象に、外部講師を招へいし学習対策(英・数・国)の講座を開講</p> <p>○《拡充》東大・京大・名大の入試問題に関する教科別研究会【教員対象】 東大・京大・名大の入試問題(英・数・国・理・社)を教員が研究・分析し、発表・意見交流</p> <p>○《新規》指導力向上に向けた教員セミナー・研修会への参加【教員対象】 各校の若手教員を中心に、指導力向上を目的に予備校等が開催する研修会に参加</p> <p>○《新規》医学部医学科研究会【教員対象】 外部講師を招へいし、医学部医学科志望者への学習指導や進路指導の骨子を研究</p>
今年度のまとめ
<p>◎外部講師による講義は大変盛況であり、参加した生徒にとって夏期休業以降の学習のモチベーションの向上や具体的な学習方法について参考になるなど、大変有意義なものとなった。</p> <p>◎各種教員セミナーや研究会の参加は、授業の指導方法に参考となる点が多く、進路指導力向上の一助となり、入試対策はもちろん、普段の授業の指導方法についてもおおいに参考となった。</p> <p>◎各校のバランスや内容を精査して、次年度の実施内容について検討したい。</p>

## 総合教育センターによる研修事業

総合教育センター講座に、新たな専門研修として、現状の大学入試問題の分析と大学入学者選抜改革による出題の傾向予想、及びそれに対する効果的な学習・指導方法の在り方を研究・開発する講座を開設し、進学指導に係る教員の指導力向上を目指す事業を行った。事業内容は以下のとおりである。

今年度の事業内容
○《新規》研究開発講座 教科別問題研究 国語 ○《新規》研究開発講座 教科別問題研究 数学 ○《新規》研究開発講座 教科別問題研究 英語 いずれの教科も、午前は外部講師による今求められる学力についての講演、午後は指導主事等による新学習指導要領の動向についての講義及び効果的な学習・指導方法について演習
今年度のまとめ
◎新しい入試問題の分析を題材としつつ、今後求められる学習指導の方向性について、参加者自身が考えるよい機会となった。 ◎県内指導者から講話による3年間の見通しをもった指導、高い目標をもたせる指導についての共通認識や目標設定ができた。 ◎外部講師から大学入試で求められる力や、それに対応するための指導（授業展開）についての講義を受講でき、若い教員にとってよい経験となった。 ◎開催時期が保護者懇談等と重なり、校務上受講を見送らざるを得なかった受講者が多く、開催時期は要検討であるが、大学入学者選抜改革を分析するという、参加者にとって大変興味深い内容であったため、次年度も外部講師を招へいして講座を行いたい。

## (4) スーパーグローバルハイスクールの拡充（県指定SGH）について

- グローバル化が急速に進展する中、グローバルな視点から社会的課題を発見・解決する力を身に付け、国際舞台や地域で活躍できる人材を育成するため、県内5地区から選抜性の高い大学への進学志望者が多い高校等を指定し、大学や企業等と連携した質の高い教育カリキュラム等の研究・開発などを行った。主な取組は以下のとおりである。

平成29年度SGH指定校：岐阜商業、大垣北（国指定）、関、多治見北、斐太

### 岐阜商業高校

- ・外部講師の指導でグローバルな事業構想を行う「ビジネスリーダー養成講座」
- ・香港での国際商談会や見本市にて、地元企業と共同で開発した商品のテストマーケティングの実施と商品販売のグローバル展開に協力
- ・韓国ソニイル e ビジネス高校との協働による商品やソフトウェア開発、商品販売

### 大垣北高校【国指定】

- ・学校設定科目「SGH課題研究」を開講し、系統的・段階的な課題研究を含む新たな教育課程を開発
- ・東京大学、岐阜大学やアジア諸国に展開する地元企業等との連携による課題探究
- ・カンボジア・ベトナムでの効果的な海外フィールドワーク

### 関高校

- ・訪日外国人を対象とした観光戦略や国連のSDGs(持続可能な開発目標)に沿ったテーマについての課題解決型研究
- ・外部講師による社会連携セミナー「さくら塾」(全12回)や講演会の実施
- ・現地の大学や高校との交流を含むベトナム研修

### 多治見北高校

- ・外国人講師による英語プレゼンテーション講座(全10回)
- ・外国人留学生(大学生)を招き、3日間にわたり英語によるディスカッション、ディベート等の活動を行う「エンパワーメント・プログラム」(疑似留学体験)
- ・ロボット研究開発リーダーによる「スーパーグローバル講演会」の実施

### 斐太高校

- ・地域の持つ魅力や地域が抱える課題を探究し、地元企業関係者や大学教授等から支援を受け、課題解決に向けた提案を行う「地域活性化プログラム」
- ・留学生と3日間ディスカッション等を行う「エンパワーメント・プログラム」
- ・クラス対抗ディベート大会等を通じたコミュニケーション能力育成

### スーパーハイスクールセッション (SSS)

県立高校のスーパーハイスクール(SGH、SSH、SPH)から、意欲のある生徒たちが一堂に集まり、お互いの研究成果を披露し合い、それをもとに自発的で自由なアイデアを出し合って、協働して新たな課題解決を行う活動(全4回)

平成29年度SSH指定校(スーパーサイエンスハイスクール:国指定):岐阜農林、恵那
同SPH指定校(スーパープロフェッショナルハイスクール:国指定):岐阜工業、大垣桜

#### (5) 少人数コミュニケーション講座の開発について

- 平成29年3月に策定した「新子どもかがやきプラン」に基づき、他の生徒と適切に関わるためのルールを身に付けたり、自分の想いを積極的に表現する力を高めたりするため、「高等学校少人数コミュニケーション講座モデル事業」を行い、岐阜県型の指導の仕組みの確立を図った。2校をモデル校として指定し、研究・開発を行った。各校の主な取組は以下のとおりである。

平成29年度モデル校：不破、華陽フロンティア（通信制）

#### 不破高校

- ・「生徒の自己肯定感を高める指導の在り方」に関する研究の実施（「平成29年度高等学校における特別支援教育推進のための拠点校整備事業」文部科学省より委託）
- ・平成30年度より、自校の生徒を対象にした「少人数コミュニケーション講座」の開講に向け、指導方法や教育課程の研究・開発
- ・地域の中学校と連携し、中高間における「個別の教育支援計画」の引継ぎやその活用等について検討

#### 華陽フロンティア高校（通信制）

- ・コミュニケーション能力や対人関係の構築力を身に付けたい高校生を対象に「少人数コミュニケーションプレ講座」による指導の実施
- ・平成30年度より、他校の生徒を対象にした「少人数コミュニケーション講座」の開講に向け、指導方法や教育課程の研究・開発
- ・県立高校の特別支援教育コーディネーターの専門性を高めるための研究及び研修会の企画・運営

### 3 平成30年度以降の取組内容

#### (1) 地域連携による活力ある高校づくり（拡充）

- 先に述べたように、「審議まとめ」において小規模化の進行が懸念される高校と位置付けられた県立高校19校のうちの16校については、平成29年度までに順次協議会を設置し、地元の市町や企業等と一体となって、地域課題を踏まえた活力ある高校づくりを推進してきた。平成30年度からは、岐阜県地方産業教育審議会（以下、地産審）の審議結果を踏まえて、グループ2でありながら協議会を設置していなかった専門高校3校（恵那農業、中津商業、中津川工業）にも協議会を設置する。

#### (2) 進学指導の強化（拡充）

- 県立高校における大学合格実績の更なる向上を図るため、普通科がある高校を中心に、生徒の学力向上や教師の進学指導力向上を継続して推進する。
  - (ア) 平成30年度より、進学指導重点校を現在の4校から、加納、本巣松陽を加えた6校に拡充
  - (イ) 進学指導連携事業：大学進学指導連絡協議会への支援の継続
  - (ウ) 総合教育センターによる専門研修事業の継続

#### (3) 理数教育フラッグシップハイスクール事業（新規）

- 新学習指導要領（平成34年度から実施予定）においては、新科目の「理数探究基礎」や「理数探究」が設けられるなど、自らが主体的に課題を発見し、その解決を図ることができる生徒の育成が求められる。そのため、これまでスーパーサイエンスハイスクール指定校及び理数科設置校等で行われてきた課題研究の手法や指導方法を県内全ての高校に普及することが必要となる。そこで、県立高校6校を「理数教育フラッグシップハイスクール」として指定し、カリキュラム開発及び成果の普及を図る。
  - (ア) 探究的な学習（課題発見・解決型学習）のカリキュラム開発
  - (イ) 研究結果を他者に伝えるコミュニケーション能力の育成

(ウ) 知的好奇心を刺激する教育環境の実現

平成30年度指定校：岐阜、岐山、岐阜農林、大垣東、恵那（国指定）、吉城

(4) 専門高校活性化に向けた総合戦略事業（新規）

- 平成30年3月の地産審による答申内容を踏まえ、各地区の産業や社会の担い手育成において、専門高校が果たすべき役割を地域レベルで検討する場として、地区検討委員会を設置するとともに、専門高校における地域の特色を生かした教育の実践研究を行う。また、グローバル社会で必要とされる職業教育の在り方を検討するため、海外職業訓練専門校に関する調査研究を行う。

(ア) 専門高校活性化のための地区検討委員会の設置

(イ) 専門高校における地域の特色を生かした教育の実践研究

(ウ) 専門高校生国際職業訓練プログラム調査研究

(5) 演劇等を通じた高校生のコミュニケーション能力の育成（新規）

- 近年、コミュニケーション能力不足を原因として、学業や対人関係に行き詰まりを感じる生徒や、急速な社会のグローバル化に伴い、日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。このような生徒に対し、演劇等の自己表現を通して、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るため、県立高校6校において、プロの演出家や俳優等を講師として招へいし、演劇表現などのワークショップを実施する。

(ア) コミュニケーション能力と表現力の育成

(イ) 安心し、居心地がよいと感じられる教育環境の実現

平成30年度指定校：山県、羽島、揖斐、不破、東濃、恵那南

## 4 検討課題

### (1) 高校の特性に応じた活性化策について

- 「平成28年度の検討まとめ」において、県立高校の活性化の基本方針として、高校の特性に応じた活性化の基本的な考え方を定め、具体的な活性化策を例示したものを、「グランドデザイン」とした。今後は必要に応じて見直しを図りつつも、このグランドデザインに基づき、個別のより高度な学習ニーズへの対応、大学合格実績の向上、大学から就職までを含めた多様な進路志望への対応、地域産業を担う人材育成、更には多様な学習スタイルへの対応など、高校の特性に応じた活性化策を検討、実施していく。

#### < 県立高校活性化の基本方針「グランドデザイン」 >

	特性（進路状況）	活性化の基本的な考え方	具体的な活性化策（例）
普通科等	選抜性の高い大学への進学が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グローバルリーダーの育成</li> <li>○ 個別のより高度な学習ニーズへの対応</li> <li>○ 新大学入試制度や新学習指導要領を見据えた探究的な学習を積極的に推進</li> <li>○ キャリア教育や進路支援体制を充実</li> <li>○ 地域から求められる人材を育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高等教育機関の教育力を積極的に活用したより高度な学習機会の提供</li> <li>◆ 少人数による主体的・対話的で深い学びの推進</li> <li>◆ 進学重点型の単位制へ改編</li> <li>◆ 授業時間以外の補習体制の充実</li> <li>◆ 大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進</li> </ul>
	いわゆる中堅進学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的に学習できる教育体制の構築</li> <li>○ 個別の進学希望へのきめ細やかな対応</li> <li>○ 大学合格実績の向上</li> <li>○ キャリア教育や進路支援体制を充実</li> <li>○ 地域から求められる人材を育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 進学希望別（コース別）教育課程の編成</li> <li>◆ 進学重点型の単位制へ改編</li> <li>◆ 授業時間以外の補習体制の充実</li> <li>◆ 大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進</li> </ul>
総合学科	進路先が多様	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な進路希望にきめ細かく対応</li> <li>○ 多様な生徒（中途退学経験者、不登校経験者、特別な支援を必要とする生徒等）への対応</li> <li>○ キャリア教育や進路支援体制を充実</li> <li>○ 地域から求められる人材を育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 進路実現型の単位制や総合学科へ改編</li> <li>◆ 昼間2部(午前・午後)、通信制（平日スクーリングタイプ）への改編</li> <li>◆ 「少人数コミュニケーション講座」の開設</li> <li>◆ デュアルシステムの導入・充実</li> </ul>
専門学科	学科によって進路状況に違いがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本県の地域産業を担う人材を育成</li> <li>○ 少子化に伴う学校の小規模化への対応</li> <li>○ 産業構造の変化等による新たなニーズへの対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地域産業やニーズに応じた学科の再編成や学科名称の変更</li> <li>◆ 柔軟な定員設定や類型（くくり）募集</li> <li>◆ 学校規模にあった学科改編</li> <li>◆ 複数の専門学科の併置校へ改編</li> </ul>
定時制・通信制		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な生徒、多様な学習ニーズや学習スタイルへの対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 夜間定時制を多部制に改編（昼間部の新設）</li> <li>◆ 全日制タイプの高校に改編</li> </ul>

- 産業教育の充実について審議された地産審による平成30年3月の答申では、社会の変化に対応した産業教育を更に推進し、各地域の産業の特色や人材ニーズ等にも柔軟に対応するため、各専門学科における基本的な学びの領域を次の《参考》のように整理し、当該領域を単位とした学科配置の必要性に言及している。また、その際、平成30年度入学者選抜から岐阜工業高校において実施しているように、学科群ごとに生徒募集を行い、第1学年において当該学科群に共通する基礎的な知識や技術を習得してから、第2学年から小学科に分かれ高度な専門性を身に付

けられるような新たな学科構成の必要性を提言している。今後は、この答申内容や新たに設置される地区検討委員会での議論を踏まえた上で、産業教育における学科構成の在り方について検討を進めていく。

《参考》今後の専門学科における学びの領域

農 業 科			
生産系	加工系	森林・環境系	
工 業 科			
機械系	電気通信系	建設系	地域産業系
商 業 科			
マーケティング系	会計系	ビジネス情報系	グローバル経済系
生活産業科			
ファッション系	フード系	ヒューマンサービス系	リビング系
情 報 科			
システム系		メディア系	

「これからの本県産業教育の充実について（答申）」（平成30年3月 岐阜県地方産業教育審議会）より

- 平成29年4月施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映し、地域とともにある学校づくりを実現するために、「学校運営協議会」の設置が努力義務化された。そこで、平成30年度から、県立学校11校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとする。今後は、該当校における実態の検証や学校の意向等を踏まえ、コミュニティ・スクールの拡充も含めて検討していく。

平成30年度コミュニティ・スクール：揖斐、不破、郡上北、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、坂下、飛騨神岡、岐阜清流高等特別支援



## (2) 今後の生徒減少期を見据えた生徒募集について

- 1学級40人未満の入学定員の設定については、平成30年度入学者選抜から一部の高校において導入した。今後は、これまでの入学状況を踏まえ、4学級以下の学校や1学科1学級となっている専門学科の定員を減ずる場合の手段の一つとして、慎重に検討する。
- 産業教育については、(1)で示したような、基本的な学びの領域を単位とした学科配置を検討していく。同時に、学科群ごとの生徒募集についても検討を行い、第1学年において、当該学科群に共通する基礎的な知識や技術を習得してから、第2学年から小学科に分かれ高度な専門性を身に付けられるような、新たな学科構成を検討する。
- 県外募集については、実施校における特色ある教育内容や部活動について、教育環境の充実や、外部人材の活用などを通して、その魅力を更に高めるとともに、初めて県外で学校生活を送る生徒を支援するためのスクールカウンセラーの配置や、既存の寮の活用などによる安心できる住まいの確保など、県外からの生徒の受け入れ体制の一層の充実を図る必要がある。また、県外へのより効果的な広報の在り方についても検討する。

### < 県外募集実施校（分野） >

加納（音楽）、不破（スポーツチャンバラ）、海津明誠（ヨット）、関有知（ライフル射撃）、八百津（ボート、カヌー）、東濃（ロボコン）、多治見工業（セラミック）、恵那農業（園芸）、坂下（福祉）、高山工業（建築インテリア）、飛騨神岡（ロボット）

## (3) 併設型中高一貫教育校について

- 併設型中高一貫教育校等については、「平成28年度の検討まとめ」においても、他県の事例の整理や県民ニーズの変化を注視する必要があるとしており、今後の社会情勢等の変化も踏まえ、必要に応じてアンケートを実施するなど、幅広い観点から継続して検討する。

## 5 平成31年度の学科改編等について

- 検討課題を踏まえ、平成31年度（現中学校3年生が入学する年度）に実施の学科改編等、各高校ごとの個別の活性化策については、以下のとおりである。

岐阜北	<b>単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）高い進学目標に対応した多様な授業を展開する。また、高大連携や国際交流事業も活用しつつ、大学入学者選抜改革に対応する少人数によるゼミ形式の授業の開講を検討。</p>
羽島北	<b>単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）文系、理系、私文、看護・保育、芸術・体育等それぞれの進路志望に対応した選択科目群の設定を検討。2年次より選択させる予定。</p>
山県	<b>普通科ビジネスコースの募集停止 単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）高校入学段階で学習分野を絞り込まず、単位制の導入により生徒の多様な進路希望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）ビジネスコースでの学びを継承した商業類型のほか、進学類型、地元企業と連携したデュアルシステムを導入した工業類型、福祉類型などの設定を検討。2年次より選択させる予定。</p>
揖斐	<b>普通科ビジネスコースの募集停止（学年制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）高校入学段階で学習分野を絞り込まず、普通科内にビジネスコースを含む複数のコースを設置し、生活環境科と合わせ、生徒の多様な進路希望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）普通科内に普通科ビジネスコースでの学びを継承したビジネスコースのほか、進学コース、これまで実施してきた地元企業と連携したデュアルシステムを位置付けたデュアルコースの設定を検討。2年生より選択させる予定。</p> <p>※ これまで実施してきた学習指導、生徒指導の姿勢を継承させること、併置する生活環境科における指導との整合性を保つため、学年制を維持。</p>

大垣南	<b>単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）選抜性の高い大学への進学から、看護や芸術系への進学まで、幅広い進路志望に対応できる選択科目群の設定を検討。</p>
大垣西	<b>単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）5教科型の国公立大学や3教科型の私立大学だけでなく、特に体育系や芸術系等の進路志望にも対応できる教育課程の編成を検討。</p>
郡上北	<b>普通科ビジネスコースの募集停止 単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）高校入学段階で学習分野を絞り込まず、単位制の導入により生徒の多様な進路希望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）進学コースのほか、ビジネスコースでの学びを継承した観光・ビジネス系、地元企業と連携したデュアルシステムを導入した工業系、地域産業系、福祉系のコース設定を検討。2年次より選択させる予定。</p>
郡上	<b>普通科に単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）5教科型の国公立大学や3教科型の私立大学だけでなく、総合学科で実施してきた情報系や看護・福祉系にも対応した教育課程の編成を検討。</p>
	<b>既存の2学科を園芸科学科、食品科学科、森林環境科学科の3学科に再編 3学科を総合農業学群(仮称)として募集 農業科に単位制を導入（単位制による全日制農業科）</b>
	<p>（目的）農業の学びの3分野（生産、加工、環境）を整え、農業教育環境の充実を図るため。</p> <p>（方向性）既存の2学科（食品流通、森林科学）を1学群3学科（園芸科学、食品科学、森林環境科学）とすることで農業教育環境の充実を図るほか、3学科を学群として募集し、柔軟な学科人数設定を可能とすることで少子化に対応。</p>
	<b>総合学科の募集停止</b>
<p>（目的）郡上市内2校における学習環境を整理するため。</p>	

関	<b>単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）2年次は文系、理系の2類型、3年次は難関国公立進学、看護・医療系進学、医歯薬進学などの類型の設定を検討。また、SGH事業で推進してきた「課題解決型研究」を教育課程に位置付け、1，2年次は全員履修、3年次は課題解決型研究を継続できる類型を設定することを検討。</p>
恵那南	<b>総合学科の系列変更</b>
	<p>（目的）時代や地域産業のニーズに応えつつ、生徒の実態や学校規模に合った系列とするため。</p> <p>（方向性）既存の文系進学系列、理系進学系列を文理進学系列に統一し、情報系列、ビジネス系列、福祉保育系列を、情報デザイン系列、ビジネスと観光系列、ライフサポート系列とすることを検討。</p>
益田清風	<b>普通科に単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）進路志望別の類型（国公立理系、国公立文系、私立文系、看護系専門学校など）を検討。2年次より選択させる予定。</p>
	<b>商業科の学科改編（既存の2学科を再編し、ビジネス情報科を設置）</b>
	<b>商業科に単位制を導入（単位制による全日制課程商業科）</b>
	<p>（目的）資格取得や上級学校への進学など幅広い学習到達目標に対応するため。</p> <p>（方向性）学習到達目標に応じた3類型（会計、情報、マーケティング）の設定を検討。2年次より選択させる予定。</p>
	<b>総合学科の系列変更</b>
<p>（目的）卒業後の進路がより分かりやすい系列名称とするため。</p> <p>（方向性）既存の観光産業系列、言語・文化系列、健康福祉系列を、観光文化系列、福祉系列、保育系列、食文化系列とすることを検討。</p>	
斐太	<b>単位制を導入（単位制による全日制課程普通科）</b>
	<p>（目的）より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）難関大学や医学部医学科受験に対応する科目、飛騨地区にはない芸術系大学に対応する科目、SGHで推進している地域課題解決型学習に関連する学校設定科目（地域研究、国際理解など）の設定を検討。</p>

吉城	普通科、理数科に単位制を導入（単位制による全日制課程普通科、理数科）
	<p>（目的）生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため。</p> <p>（方向性）普通科に、文理進学コースのほか、総合コースを設け、看護・福祉、国際観光、芸術・体育など進路志望に応じた科目の設定を検討。また、理数科においては、より高い進学目標や文系進学志望にも対応できる柔軟な教育課程の編成を検討。</p>

※参考 学科改編等の内容別分類

改編内容	実施校
学科またはコースの募集停止	山県／揖斐／郡上北（普通科ビジネスコース）
	郡上（総合学科）
単位制を導入	岐阜北／羽島北／山県／大垣南／大垣西／郡上北／郡上（普・農）／関／
	益田清風（普・商）／斐太／吉城（普・理数）
学科改編	郡上（既存の2学科を3学科に再編し、総合農業学群（仮称）として募集）
	益田清風（既存の2学科を1学科に再編）
総合学科の系列変更	恵那南（地域のニーズと小規模化に対応するため系列の統合等）
	益田清風（学びの内容がより分かりやすい系列名に変更）